

キリシタン塔

別府のキリシタン塔（二）

藤内喜六

別府史談七巻には、故藤内喜六先生のキリシタン塔の研究より、「寛永キリシタン塔」について掲載しました。ここでは、先生が記録された、別府市に散在するその他のキリシタン塔について掲載いたします。

一、別府のキリシタン塔型式塔の編年

キリシタン塔は、別府南西部の朝見川流域・東山・枝郷・高崎山周辺においてその密度が高い。しかも、その場所により塔の形態は様々であるが、

第一型式 五輪塔のもの

第二型式 五輪塔の空・風輪を除いて、相輪を

付けたもの

第三型式 第二型式の水輪（塔身）が方形になったもの

第四型式 第三型式の火輪（笠石）に特徴があるもの

第五型式 宝篋印塔型式で、馬耳状突起がないもの

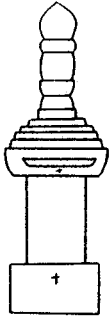
第六型式 斗舩（トマス）型伏墓である。斗マスとは一

斗舩のことで、墓の形態が斗マスを伏せたよう見えるのでこの名称が付けられた。この斗マス型伏墓は、キリシタン墓特有の型式で、キリスト教と共に日本に伝来した西洋風の墓型であると考えられている。

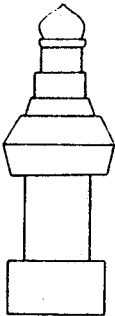
斗マス型伏墓は、方形の切石を伏せたものと、方形寄棟式に加工したものである。方形寄棟式のものには長方形のものがあり、上部中央に長方形や円形の作り出し部のあるものがある。

（別府市誌）
ほぼ以上の六型式に分類することができる。

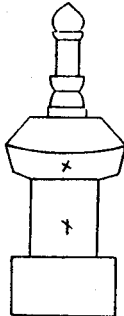
第五型式
朝見大野家墓地



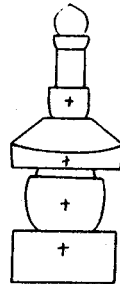
第四型式
南石垣ツボネ



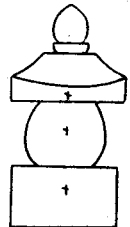
第三型式
枝郷極楽寺址



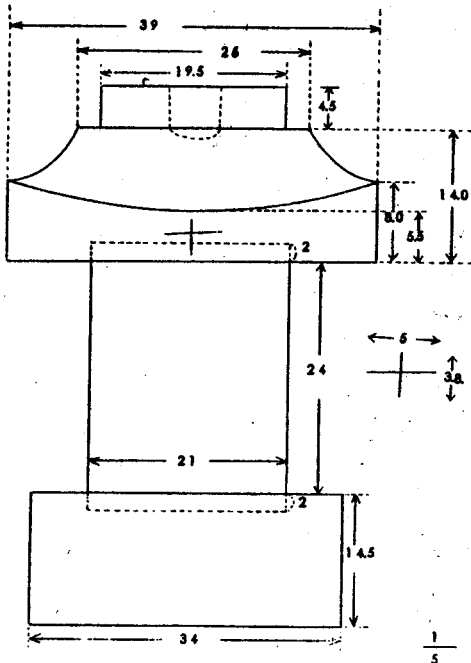
第二型式
朝見系永家墓地



第一型式
枝郷極楽寺址



キリシタン塔型式図



この塔は、先にあげた第三型式に属するものである。
石質は凝灰岩（俗に永興石）である。台座と塔身部の接
触面及び塔身と蓋の接触面は図のようにクリコミがあり

- キリシタン塔（北石垣一号塔）
- ① 位置 別府市北石垣中須賀字寺の前
 - ② 年代 寛永後期末
 - ③ 調査 昭和四〇年一月三三日

塔の安定性を作っている。接触面はそれぞれ荒削りのままである。

十字（クルス）彫刻は、蓋の軒口の正面中央部のみに左上がりの線刻の十字が一個みられるほか、塔身部及び台座部にはまったくみられない。なお、隠し十字も全くない。これは江戸幕府のキリシタン弾圧政策が厳しくなっていることを示すものであり、寛永後期以後と思われる。相輪部は発見されていないが、キリシタン塔独特の九輪の刻みのないものであろう。

キリシタン塔（北石垣二号塔）

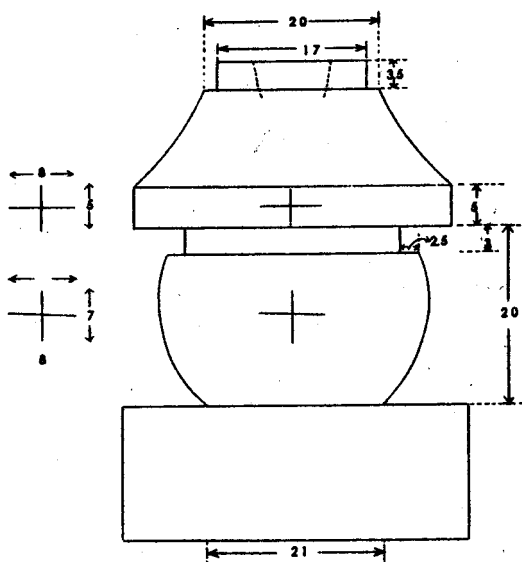
① 位置 北石垣寺の前

② 調査 昭和四〇年一月三日

塔の型式は第二型式で宝塔型式を象つたものである。この第二型式までは隠し十字はみられず、外面部に線彫十字のみが見られるのが特色である。相輪部を紛失して

いるが、九輪の刻みのない相輪をもっていたものと思われる。

この塔の特色は、塔身の上部に莖部をもっていることである。



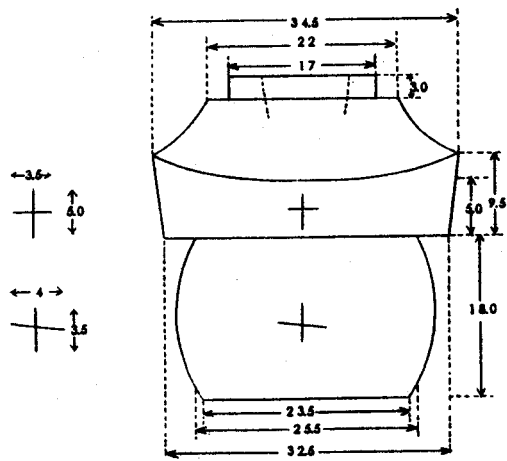
キリシタン塔（北石垣三号塔）

① 位置 北石垣寺の前

② 調査 昭和四〇年一月三日

この塔は、相輪部を失っているのが、第二型式に属するものと思われる。ただ疑問の点は、蓋と塔身の釣り合いがとれていないので、別々のものが組み合わさっていて、台座も不明であるが第三号塔として取り扱いたい。

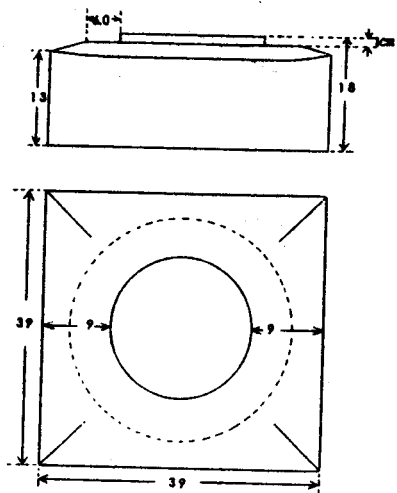
十字は図のように線彫りのものが蓋部、塔身部にそれぞれ一箇刻んである。塔身部のものは左下がり十字であり、蓋部のものは縦線が湾曲して湾曲しており、珍しいものである。



る。

石質は凝灰岩である。組合せの疑問が残るので年代はひかえたいが、もし一対のものであるならば寛永前期のものであろう。

- ① 位置 北石垣向ノ原
- ② 調査 昭和四〇年一月二三日



この墓は、斗マス型では第六型式になる。この墓は、斗マス型式の中でも形のすぐれたものである。

上部に直径約二〇センチの円を作り出している。この円内に梵字らしい彫刻があるが確認できない。この墓には十字彫刻が施されていない。

石質は凝灰岩で、下部は荒削りのままである。斗マス墓については、編年が行なわれていないので年代は不明であるが、斗マスの崩れからみて、江戸時代中期頃とするのが妥当であろう。

はととのっているが、粗雑の感がある。外面部の十字は、他の塔と違い彫刻刀で削いだような形状でやや右上がり、で隠し十字は全く見られず、接面部も荒削りである。

石質は凝灰岩で、塔身部の一部が破損されている。塔の製作年代等何も見られないが、塔の型式から推察すると、寛永中期頃と思われる。(昭和四九年九月五日記)

キリシタン塔 (吉弘第一号塔)

① 位置 吉弘町矢田孝雄氏
宅裏竹林内

② 所有者 矢田孝夫氏

この塔は、第三型式に属するもので、全高約一、一三メートルである。塔の製作上の特色は、外観

